

# 桃太郎の變遷

東京高等學校教授

小池 藤五郎

## (一)

伸び行く日本の子供たちに一番愛され、永遠に永劫に若い日本を育て上げ、國民の精神生活に深い關係のある國民童話中の桃太郎の話は、今から二百年以前においても、亦三百年の昔にあつても、或は約五百年以前のこの説話の發生當時においても、今日と同じ筋で語られたであらうか。

桃太郎の話の起原に就いては昔から色々研究され、多くの説が行はれてゐる。遠い過去の神話傳説に附會する學者、或は廣く諸外國に類話を求める行き方、又は手近い文獻、木曾川の流域や四國邊の海岸等の如くに地名の類似や口碑を辿る方法、又それ々の土地に口碑となつてゐる話の探索など、學者の倦まざる努力の蹟は誠に多い。

併しながらかかる研究の多くは、現在行はれてゐる桃太郎の話が殆どその儘に過去の時代にも、否々、發生の當時に於てさへも語られてゐた如くに考へて、其の間の變遷を無視してゐる。果してその點の顧慮を必要としないであらうか。

貞享・元祿から享保・寶曆へかけて出版された近世文學史中、當時行はれてゐたと思はれる口碑説話を、其のまゝ書いて子供たちに與へたらしい文獻が認められる。これ等は行成表紙本・赤本・ひな本・黒本・青本などと呼ばれる物の内の或種の文獻であつて、後年に江戸に榮えた所謂江戸文學の萌芽でもあり、庶民教育の準教材といふ教育的の意味もあり、いづれにしても價值のある文獻である。これ等の内に記されてゐる桃太郎の説話は、この話の起原、發生へ溯る事からも、亦變遷を知る上からも貴重な史料であるが、全く研究者は觸れる事がなく、約百四十年も後に書かれた「燕石雜志」などの記

事を金科玉條の如くに見てゐる。元祿頃の桃太郎の話は一體どんな筋であつたらうか。それは「桃太郎昔語り」と言ふ珍しい赤本に次の様に記されてゐる。

子供が五人で火鉢を圍んで桃太郎の話をしてゐる。お爺さんは山へ草刈に行き、夕方歸つて来る。お婆さんは川へ洗濯に行き、流れて來た大きな桃を拾つて歸る。夫婦はこの桃をたべて三十歳位の若さとなり、お婆さんは男の子を産み、桃太郎と名を付ける。この子は成長するにつれて大變な力持で、父母に「さう團子」を作つて貰ひ、鬼ヶ島へ寶物を取りに行く。途中で犬・猿・雉に出會ひ、團子を與へてお供にする。鬼ヶ島の城門を打破つて鬼の大將を組敷き、鬼共に寶物を出させる。桃太郎は打出の小槌・隱蓑・隱笠などの寶物を持つてたゞ一人で家に歸つて来る。烏帽子狩衣姿の父、搔取姿の母の前で、長上下姿の桃太郎が打出の小槌で金銀を打出す。

これは今から約二百二十年位前の文獻と思はれる。この省略された梗概を見ても

一 子供が桃太郎の話をする體裁である。

二 爺は山へ草刈に行く。

三 桃太郎は桃から生れず、桃を食つて若くなつた母から生れてゐる。

四 鬼から寶物を取つて歸り、金銀を打出し、豊かな暮らしをする處に話の力點がある。

五 犬・猿・雉がお供をするは鬼ヶ島まで、それからは全く桃太郎のみとなる。

六 團子は「さう團子」である。

等の諸點が眼に付く。桃太郎の話で猿はいつも剽輕者に取扱はれ、「さるこは難所」は途中の道の險しい時の洒落、「いらさるおれこの腕だて」は猿が鬼と格闘の際の洒落である。

## (二)

「桃太郎昔話」より約二十年位前に出版されたミ推定し得る文獻に、「桃太郎話」<sup>バナレ</sup>といふ珍しい書物がある。これは三人の子供が若殿様を慰める爲に桃太郎の昔話をする筋である。「桃太郎昔話」<sup>ガタリ</sup>はこの話をやゝ詳しく記したもので、桃太郎は面白い<sup>ガタリ</sup>なき、ある點は、當時の子供の間に桃太郎が非常に人氣が有つた證據であらう。

吾人が知り得た桃太郎の話の中で、纏つた物としては「桃太郎話」が最も古い。上述の二説話は極めて近く、これを吾人は第一系統の桃太郎の説話と呼ぶ。

次に第二系統の桃太郎の説話と呼ぶものがある。第一系統の話が何時しか少しく變化して一系統の説話となつたもので、その代表的の文獻は式亭三馬珍藏本「もゝ太郎」であらう。

昔々お爺さんは山へ柴蒔りにお婆さんは川へ洗濯に行く。美しい桃が流れて來たのをお婆さんは拾ひ、二人で喰べる。忽ち若くなり、一人の男子を産み、桃太郎と名附ける。桃太郎は大力であつて、父母に願つて日本一の黍園子をしらへて貰ひ、鬼ヶ島へ行く。途中で、犬・猿・雉に團子を與へてお供にする。桃太郎は鬼ヶ島の城門を打破り、鬼の大將を組數き、寶物の隱囊・隱笠・打出の小槌・延命袋・美しい布の巻物などを取つて歸る。

この第二系統の話の記された文獻は多くあるが、兎に角説話其の物は現代に接近してゐる。これは二百十四年前の享保八年頃には確に話されてゐたらしい。貞享・元祿から享保にかけて、桃太郎の話は段々變化し、元祿以前の古い話には特に「桃太郎昔話」<sup>ガタリ</sup>・「桃太郎昔話」の如く、「昔話」「昔話」等の言葉が添へられたものらしい。

第一系統の話が第二系統の話に移るミ、こんな點が違つて來たかミ言ふに

一 話の始に子供達が桃太郎の昔話をするミ言ふ部分が無くなつてゐる。

二「草刈」が、「柴刈」に變り、「さう團子」が、「日本一の黍團子」になつてゐる。

三 桃太郎は寶物を持つて家に歸るだけで、家へ歸つてから金銀を打出して榮えた様は記されてゐない。

の三點が最も大きな部分であらう。よしや第二系統の話が今日行はれてゐる桃太郎の話にかなり接近したにしても、其最も重大な話根、桃から生れたさいふ點が全く現れてゐない。否々、寶曆以前に記録された文獻には、桃から生れたさいふ記事は未だ見えず、桃太郎の誕生は「列仙傳の「西王母傳説」に據り、若がへつて産む事になつてゐる。桃から生れる植物胎生の信仰が、文化程度の低い時代のもの故、桃から生れたさする方が古いとするは、此説話の特殊性を顧慮せずに演繹的の論法を應用したのみで、説話の發生した時代をも、亦上述の諸文獻をも無視した論であらう。

流れて來た桃は一個である。一個では割つて食はなくてはならない。こゝに植物胎生の思想が内面からは倫理的の支持、外面からは桃その物が分娩に伴ふ形態上の類似に支持されて、後も後、享保以後に入り來つたものである。夫婦で一個宛食ふ考へから、桃が二個流れて來たと言ふ話も現れてゐる。

### (三)

桃太郎の名を單に「太郎」のみ記す文獻もある。紋上の如く桃太郎と桃との關係は間接である故、「太郎」でも差支はない筈である。始めは單に「團子」であつたらしいが、後に「さう團子」になり、更に後に「日本一の黍團子」になつたらしい。元祿頃は團子を絲で貫いて數珠の如くして腰に付けたが、後には袋に入れて腰に下げる事に變つて行く。

桃太郎が鬼ヶ島へ向つて出發するは、鬼の殘虐な行爲を懲す目的ではなく「保元物語」の「爲朝鬼ヶ島に渡る事」や「お伽草子」の「一寸法師」などに見える鬼が寶物を所藏するさいふ思想に據り、その寶物を得て物質的に満足の生活を翹望してゐる。かゝる點は時の整理を経ない古説話ほゞ明瞭になつてゐる、その反對に後年の話ほゞ倫理化されてゐる。

桃太郎の話は室町時代の初期から中期頃に發生したらしく、當時の不景氣、海外發展、倭寇貿易家ワカウなごに關した特殊的實際的な話が核心となり、時代の童話的氛圍氣により、何時しか斯うした英雄譚の基礎を作つたものゝ考へられる。犬・猿・雉の禽獸説話の部分なごも同様の過程を持つであらう。これは單に想像説ではない。寶曆元年か同二年に出版した文獻「桃太郎物語」は、當時の作者の桃太郎に對する見解であつて、前述の諸點を奇しくも暗示してゐる。鬼ヶ島鬼門説の如きは、後年に曲亭馬琴なごの附會の説に過ぎない。安永頃の物と思はれる黒表紙の「ひゝな本」の「桃太郎」を見るに、話の始の方が次の様になつてゐる。

お婆さんが洗濯に行き、桃が一つ流れて來たので拾つて食べたたら大變に旨い。今一つ流れて來い、お爺さんにも食べさせたいと思つて待つてゐるに、又一つ流れて來た。お婆さんはこの桃を家に持つて歸り、お爺さんが草刈から歸つて來たので喰べさせようとするに、桃の中から男の子が生れた。

僅な始の部分だけでも、お婆さんが桃を一つ喰べた所には古い形、即ち西王母傳説の痕跡が現れ、桃から男子が生れる部分には新變化が鮮明に認められる。安永・天明・寛政に桃太郎の話はいよく現代化してゐる。それと共に、これが文學的に取扱はれ、多くの脚色も加へられてゐる。前に述べた話は、勿論説話其のまゝの記録と思はれる文獻に據つたもので、特に文學的に構成された物には觸れる事を避けたつもりである。現在語られてゐる桃太郎の話、國定教科書に採られてゐる説話なごは、よく兒童の心理に合してゐる上に、教育的道德的であつて、誠に立派な話である。之は決して一人の手、或は數人の力で整理され完成されて今日に至つたものではなく、日本國民が國民精神が、親としての不斷の教育的態度が、いつしか説話を變化して斯くも完成せしめたものである。其一々の説話を吟味する時、痛切に此點が感じられる。夫は單に桃太郎の話のみではなく、他の國民童話に於てもほと同様である。（東京朝日新聞四月十四日掲載）